



一隅を照らそう
3月号

302号
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp

昔から、童話に登場するのは、いたずらな子供や、お年寄り、動物が多いようです。また、村のお地藏さんとか阿弥陀さまもなじみ深く、その内容は道徳的・仏教的となります。それらは読み聞かせて楽しみながら、心を耕してもらおう大切な役割があります。今月は、そんな中から仏教童話の一つ紹介します。

願いのゆびわ

文・西谷昌久

村のはずれに、大きなニグロダの木があります。ムニカは、お祭りの日には、その木に、花や香をお供えします。きょうは正月のお祭りの日、ムニカがおまじりにいくと、木のそばに、旅のお坊さんが休んでおいででした。

「まもなく日も暮れます。うちにお泊まりください…」ムニカの言葉に、お坊さんはころよくムニカの家泊まり、いろいろ、旅の話をしてくださいました。めずらしい話をしてくださったお坊さんは、じぶんの手から、ゆびわをはずし、ムニカにわたして、「こう、いわれました。

「おせわになりましたな。これは一つだけ願いをかなえてくれるゆびわです。よく考えて、お願いしてごらん…」ムニカはにこにこして、お礼を申しあげました…。

次の朝、あのニグロダの木のところまで、お坊さんをお送りしました。帰る途々、ムニカはゆびわをながめながら、考えました。

「畑をもう少し広くしてもらおうか、め牛も一頭ほしいな、子牛ができたら嬉しいだろうな…」と考えましたが、「いや、こんなことは、はたらいで、できること…もつといい願いを思いつくまで、このままにしておこう…」と思って、ムニカは、前よりもはたらきものになりました。め牛も一頭、馬も一頭、飼うことができるようになりました。

かわいい、はたらきもののおよめさんもきて、いまでは子どもたちも三人…。

家族にかこまれて、ムニカは、毎日たのしく、はたらきました。

それでも、ときどき、ゆびわをながめて、何か、お願いしようかなと思うのですが、そのたびに、もっと、たいせつなことがあるだろうと考えて、願いごとは、先へのばしました。

子どもたちも、それぞれ、およめさんがきたり、およめさんにいったりして、ムニカは、まごもできました。

ムニカは、もう今では、ゆびわにお願いすることも忘れていきます。子どもたちと、毎日、畑で作物をつくり、馬や牛をそだてています。

毎日、元気に、にこにこはたらくことができること、子どもたちやまごたちとも、仲よくなったのしく暮らしていること…。それが、ムニカのほんとうに願っていたことだったのでしょうか…。

中山書房・雑誌『仏教の生活 二四九』

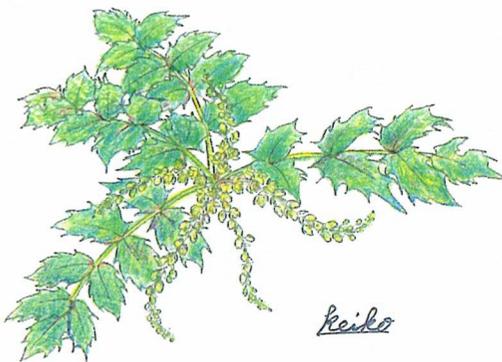
折りふしのはな

ひいらぎをんでん
終南天

魔除けの終と縁起物の南天とが一緒になった名前です

葉は終と同じくギザギザしてトゲがありますが花は黄色くてほのかに甘い香りがします

茎の頭の方から放射状に花が咲いているのが髪飾りのようであり、ちよつと おもしろいです (遊)



Keiko

月例行事案内

- ◎八 日 午後二時 薬師如来祈禱会 観音経読誦
- ◎十二日 午後二時 智泉院法要日(於・日本橋茅場町)
- ◎十八日 午後二時 観音経読誦法要(於・神木観音堂)
- ◎二十八日 午後二時 不動明王護摩供修行

*毎朝六時より公開で朝のお勤めをしております
ご都合のよろしい時には、ご一緒にどうぞ

どなたさまでも
ご参詣下さい



第6回 止観(坐禅)会

3月9日(土)10:00~11:00 (500円)
月に1度の坐禅会。1月と2月は風流な雪中禅。春めいてきた3月、静かに瞑想してみませんか。

おとがき

○米朝首脳会談が2月27、28日にベトナム・ハノイで開催。日本は勿論、世界中が注目しています。

○二〇一四年に、ノーベル平和賞を史上最年少の十七才で受賞した、パキスタン出身のマララ・ユスフザイさんが日本へ。3/23日に「国際女性会議」で女性の活動について基調演説するという。紛争で大怪我を負った彼女の言葉は深く重いことでしょう。

○一方アメリカファーストのトランプ米大統領をノーベル平和賞に推奨したといわれた日本の安倍首相。その思惑が色々話題に。○小惑星探査機「はやぶさ2」が地球から約3.4億離れた「リュウグウ」へ無事着陸。ワクワク、ドキドキです。

○「平成」もあと二ヶ月。災害や沢山の出来事と共に、大きな時代の区切りをもって新しい元号が誕生します。○近所の小学六年生が、卒業を前に当山にて「お茶体験」。十六回目となりました。

○「春霞」は唱歌の「菜の花畑に」の歌詞が連想され、昔から情緒のある春の風景。しかし今は「黄砂」や「PM2.5」とかいって、「花粉症」と共に嫌われています。お大事に。合掌